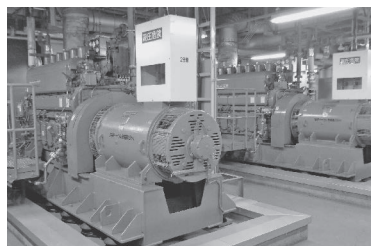


第2 常任委員会からの報告

■留萌市立病院における胆振東部地震（停電障害）の災害対応について
停電発災後、臨時対策本部を設置。停電時における電力供給体制に切り替え、発電量に対する使用電力の見込みを基に一般外来診療は、不調な方や薬の処方が必要な方に制限。救急外来は、通常体制とした。また、停電により照明制御システム盤の基盤が故障。

改修費用739万8千円を国の補助金申請をしていることなどの報告を受けました。
委員から「自家発電・コージェネレーションシステム（電力熱を同時に生産する）は適正に運用できたか」と質問。「稼働したが院内の医療機器などの電力量の把握が甘く不安はあった。今後は、自家発電の電力による病院機能の維持が現状の使



▲留萌市立病院の非常用自家発電設備

用機器でどの程度まで可能なのか（使用制限の範囲）再確認と更新管理が必要だと考えている」と答弁を受けました。

森林・林業・林産業活性化推進議員連盟からの報告

3、林産試験場（旭川市）は昭和25年、「道立林業指



▲林産試験場（旭川市）で説明を受ける議員

この視察を生かし、森林・林業・林産業活性化推進議員連盟は、市の林産業の発展の可能性について、調査・研究していきます。

第1 常任委員会からの報告

■大雨被災状況、被災対応を確認する現地視察
降雨量が観測史上最高となった7月3日の大雨により農業、土木、水産、衛生関係など大きな被災報告を受けました。
第1常任委員会では、上水道施設の被災状況と市内の土砂崩れ現場を視察、今後の対応について確認しました。まず、新信砂浄水場（増毛町新信砂）は、山田の沢川右岸



▲法面が崩壊した見晴39号通り

側が、増水により導水管路が洗掘され露出したため、復旧工事が行われました。また、沖見配水場では、災害時の配水場の機能として、2号配水池が給水拠点となることを確認しました。続いて、見晴39号通り土砂崩れ現場を視察。高さ10メートルに及ぶ法面崩壊など延長25メートルが被災しました。今後、復旧工事を行うが、日常の定期安全

留萌市議会だより

第130号

平成30年11月1日発行

留萌市議会事務局

TEL42-1907 FAX43-6700

URL : <http://www.e-rumoi.jp/gikai/index.html>

E-mail : rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp

留萌市議会

検索



※左記のQRコードからも留萌市議会のホームページにアクセスできます。

主な内容

- P10 ・議員定数は「2人削減」
- P11 ・各常任委員会からの報告
・森林・林業・林産業活性化推進議員連盟からの報告
- P12 ・行政視察を行いました！
- P13～P15 ・第3回定例会一般質問項目
- P16 ・決算審査特別委員会からの報告（一部抜粋）
- P17 ・こんなことが決まりました
・各組合議会からの報告 …………… ほか

議員定数は「2人削減」 16人から14人に決定

留萌市議会第3回定例会において、議員定数を現行の16人から2人削減の14人とすることを盛り込んだ市議会議員定数条例の改正案を賛成多数で可決しました。

議員定数に関する協議は、昨年9月に議員全員で構成する特別委員会を設置し、1年間に7回の特別委員会と10回の小委員会の開催を経て、議案提出となりました。

この間、3月には市民1000人を対象とした議員定数に関するアンケートを実施。375人の回答の結果は、現状の「16人は多い」が64%、「現状のままが良い」が34%となりました。

6月29日には「市民と議会の意見交換会」を開催。神原勝北海道大学名誉教授の基調講演とグループ別意見交換を行いました。これら「市民と議会の意見交換会」の意見、「アンケート」の結果などを参考に類似都市の状況、将来人口、留萌市議会における活動状況を鑑み最終議論を行ったところ、合意形成が得られず、表決の結果、定数増が0人、現状維持が6人、削減が9人となり、削減することに決定。その後の議論で、2人削減とすることで、条例改正案の議案提出となりました。

第3回定例会では、2人



▲議員定数削減が決定した留萌市議会

削減の議案提出者「萌政会」「萌芽クラブ」「留萌公明党」の各会派を代表して珍田亮子議員（萌政会）が提出理由を説明。この説明に対して、現状維持を唱える野呂照幸議員（民主）、坂本茂議員（無会派）、米倉靖夫議員（無会派）が質問し、議論しました。続いて、現状維持の坂本茂議員（無会派）の反対討論、2人削減を主張する鶴城雪子議員（萌政会）の賛成討論の後、起立採決を行い、賛成多数で議員定数条例の一部改正案を可決しました。



▲開設予定場所の旧学習センター（東雲診療所）

【答弁】 現在のところ、何月とは特定はできない。場所は旧学習センターで、病

【答弁】 現在のところ、何月とは特定はできない。場所は旧学習センターで、病

質問 病児保育事業について
病児保育は、保育所に通所している子どもが病気の場合、保護者に代って看護師や保育士が一時的に子どもを預かる事業で、働く保護者にとって安心して子どもを育てるための貴重な子育て支援策である。市は、今年度内に留萌市立病院に隣接する旧学習センター内に開設する予定だが、この事業の実施される時期と今後のスケジュールをお聞きしたい。



質問 冬に向けての雪対策について
昨年の積雪は平年の2倍近くになり、除雪対策費も過去最高の7億円を超えたが、今後は、雪堆積場の確保や、現在の雪捨て場の時間の拡大も必要であると考えるが市長の考えを伺う。また、市道にも関わらず除雪の入らない住民のために何らかの対策を講じる事ができないのかお聞きしたい。

平成30年第3回定例会

一般質問と答弁

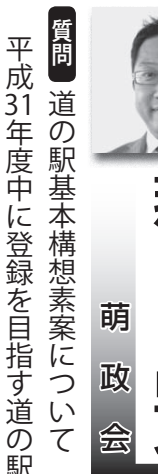


▲道の駅基本構想素案が公表された、るしんふれ愛パーク

【答弁】 道は、留萌地域のさまざまな魅力を発信する広告塔として、新たな魅力を発信する広告塔として、新たな

【答弁】 道は、留萌地域のさまざまな魅力を発信する広告塔として、新たな

質問 道の駅基本構想素案について
平成31年度中に登録を目指す道の駅基本構想素案を8月に公表し、背景や目的、基本方針、施設整備の考え方などが示されているが、道の駅の利用者の主なターゲットは観光客なのか、地域住民なのかをお聞きする。地域の特産品や農水産品の販売は、新たに建設する公共施設なのか、それともプレハブなどの仮設建物によるものなのか、また、公園内で物販をした場合、補助金の返還が発生するのか、市長の見解を伺いたい。



質問 今後のスケジュールについて
通常の業務であれば、基本計画策定後には、実施設計という流れになると考えるが予定についてお聞きする。

囲のことはしているということでご理解願いたい。

行政視察を行いました！

市議会では「行政視察」の重要性を認識しながらも、市の財政状況を考慮し予算を要する行政視察は自主的に実施していませんでした。各自治体の現状などを把握する必要性から、市の「新・財政健全化計画」の終了を機に平成28年度から再開しました。

※「行政視察」とは、先進的な取り組みを行っている自治体を訪問、研修を行うことで議員の資質、政策能力および政策提言能力などの向上を図るものです。

第1 常任委員会 行政視察

■視察先 岩手県①遠野市「道の駅」②滝沢市「複合施設」③紫波町「複合施設」

■視察日程 7月3日～5日

今回は、留萌市が船場公園の道の駅登録申請に向け準備を進めていることから、全国モデル道の駅6カ所に選定されている「遠野風の丘」を視察。次に市の市庁舎をはじめ、社会教育施設など、多くの公共施設などの建替え、改修等の議論が本格化してくるから、滝沢市の複合施設「ビッグルーフ滝沢」、紫波町の複合施設「オガール」を視察しました。

●道の駅「遠野風の丘」



▲多くのテナントが並ぶ道の駅

年間利用者数は約199万人、年間販売額6億円 雇用約130人。売れる商品の検討、商品の入れ替えも含め、常にミーティングをするなど研究熱心な方々で運営されています。東日本大震災ではこの道の駅を拠点として活用しました。留萌市が登録予定の道の駅も市内、管内への玄関としての役割の中に災害時等は船場公園全体の活用も必要なことから、災害拠点基地としての利活用など、学べるものが多くありました。



▲遠野道の駅について説明を受ける委員

●「ビッグルーフ滝沢」



▲可動式座席

この施設は従来型の施設と違い、稼ぐ施設として、どの部屋も飲食・飲酒を自由とし、使用についても制約をしないことが基本にあります。それにより多くの市民が利用する空間となり、レストラン、産地直売等消費活動で稼げることに繋がり、滝沢市が目指す新しい賑わい創出になりました。

●「オガール」



▲マルシェ（地場産品売り場）

民間の視点で、徹底的な採算モデルがデザインされ、補助金に頼らないまちづくりを進め、年間利用者は、100万人を超え、エリア従業員数も250人以上と多くの雇用も生みだし、未利用地の有効活用、4カ所に分散していた役場庁舎の新築移転、近隣地区の不動産価格の上昇、さらには構想段階から町民参加、民間活力の誘導等、多くの効果があげられます。

災害から学ぶ防災対策について

この豪雨により、市内では12カ所で土砂崩れが発生。人身事故に及ばなかったことは幸いとしつつも、崩れた崖の上に建つ家屋が崩れる寸前の極めて危険な状況に置かれた所があった。さらに見過ごしてはならないのはこの12カ所のうち7カ所が、北海道が「土砂災害特別警戒区域」として指定した所かその周辺ということ。市内に66カ所ある「土砂災害特別警戒区域」の防災対策を急ぐ必要があるのではないか。

また、留萌川水系の大和田遊水地より上流で、留萌の水田・畑の約7割近い農地と作物が浸水もしくは冠水の被害を受けたことは重大。大和田遊水地より上流方面の農地の浸水・冠水対策はほとんど進んでいない。市として関係方面に強力に要請すべきではないか。



▲峠下の冠水した水田

【答弁】66カ所の土砂災害特別警戒区域の防災対策については、土質調査もす

るなどして優先順位を示し協議をしていきたい。留萌川上流部における田畑の浸水対策については、河川改修と樋門機能の両面から検討し関係機関と協議をしていきたい。

【質問】生活支援施設の設置について

療育手帳を所持する市民が、住み慣れたまち、家族や知り合いの近くで生涯を安心して過ごす環境をつくることは行政の仕事であり責任である。現在市内にはこうした「生活支援施設」が2カ所あるが定員は十数名。少なくない方々が留萌を離れざるを得ない状況に置かれている。北海道や社会福祉事業者の協力も得て、軽作業所の併設も考慮した「生活支援施設」を留萌につくる必要があるのではないか。

【答弁】先進地から学ぶことも含め、来年「留萌市障がい支援計画」を見直す際に取り上げて議論したい。



おの としひろ
小野 敏雄
萌芽クラブ

【質問】JR留萌線の今後について

JR留萌線見直し問題の今後の方向性、市民に対する情報提供のあり方、留萌増毛間廃線による譲渡財産の調査の進捗よく状況についてお聞きしたい。

【答弁】沿線自治体で存続の可能性を探りつつ連携して情報収集して共通課題の協議を進める。持続可能な公共交通



とみず みほこ
戸水美保子
留萌公明党

【質問】ヘルプマーク等の配布状況について

昨年10月よりヘルプマーク・ヘルプカードの配布が行われているが、これまでの配布状況は。また、窓口に来られない方への配慮やマークの意味の啓発はどのように行われているか。

また、外部障がいの方で時に助けが必要な方や発達障害がある児童生徒などが自ら支援してほしいことを説明することが困難な場合、災害時用に持つことは可能か。

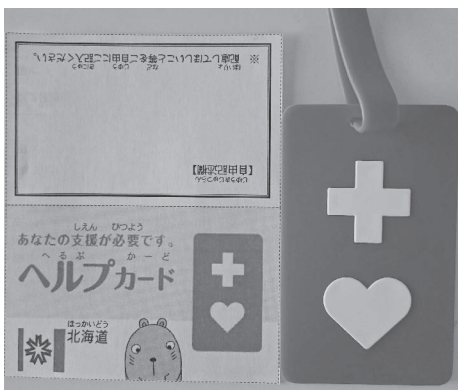


▲河川の水が氾濫危険水域に到達した八線右沢

【質問】留萌市の子育て政策

市内の保育園で発生している待機児童の状況と待機児童解消策、第2次「留萌市子ども・子育て支援事業計画」を策定するに当たっての子育てニーズ調査の方法を伺いたい。

【答弁】7月現在では、0歳児4人が待機児童となっている。潜在保育士が市内の保育園で勤務する場合、その子どもの優先入所に配慮した保育の調整指数に加点する項目を追加することで、保育士確保と待機児童の解消が図られることから、市保育所の利用に関する規則を一部改正した。ニーズ調査は、妊産婦や小学生以下の子どもを持つ約1500世帯を対象に11月下旬から来



▲昨年10月より配布されている「ヘルプカード」

【答弁】これまでヘルプマークは16枚、カードは13枚配布している。当初は申請によりお渡ししていたが、2月から

のあり方を考えることを目的に公共交通セミナーを開催したい。JR北海道からの提供情報も含めて、さまざまなシミュレーションをした中で情報提供を実施していきたい。

譲渡財産の危険度調査は終了していない。利活用策を検討しながら譲渡に向けた協議を進めたい。

【質問】合同墓の詳細について

合同墓の場所、規模、運用方法など概要について、また設置に向けて市民ニーズの調査はしたのか伺う。



▲合同墓の建設が予定されている市営墓地

【答弁】市営墓地E地区に建設し、総予算650万円、1500体収容予定。生前予約は受け付けず、利用料1体3万円とする。市民ニーズ調査は実施していないが今後の市民の声に耳を傾け取り組んでいきたい。

【質問】市内小中学校の学力テストについて

学力テストの結果と学力向上に向け

た取り組みについて伺う。

【答弁】小学校4科目、中学校1科目で全国平均正答率を上回った。小学校算数や中学校の数学で課題が残った。詳細な結果は、12月頃市ホームページで公表する。学力向上に向けて、教師が児童・生徒と向き合う時間を確保するため教師の勤務環境の充実に努めていく。



むらやま
村山ゆかり
萌芽クラブ

【質問】留萌市の防災

今年7月の大雨で河川水位が氾濫危険水位に到達したため、避難指示を発令したが、対象地域の住民の約2割しか避難しなかった。市民の意識をどう判断しているか。避難指示や避難勧告の意味を伝えるための取り組みは考えているのか。避難所運営に女性視点を取り入れるためのワーキンググループを作る自治体が増えているが、留萌でも検討すべきと考えるがどうか。

【答弁】避難情報発令に対する実態を把握するために今回、避難指示・避難勧告の発令対象になった地区を対象にアンケート調査を8月に実施した。この結果を元に今後の避難情報の発令に向けた課題を整理したい。避難情報の意味や行うべき行動について、市の広報誌や各地域への説明会、お茶の間トー

【答弁】道路は通年での維持管理を考えることから、夏場は安全な通行に支障がある場合、連携を図っている。美化という観点では、環境美化パートナー制度に賛同してもらえ地域と連携して取り組みを強化したい。

現在、「地域住民用小規模堆雪場」の要綱を策定中であり、その要綱に当てはまる約30カ所の空き地の調査を行っている。現在、1地区の町内会の代表者と協議を進めており、ここを雪の堆積場のモデル地区にしたいと考えている。

12月第4回定例会一般質問から インターネット中継(YouTube) が始まります！

議会運営委員会が検討している議会におけるICTを進めるための3つの重点項目は、

- ①資料のペーパーレス化の試行
- ②インターネットの試験放送の実施
- ③マイクシステム等の調査研究

の3点です。
6月の補正予算において、「インターネット放送の実施」及び「マイクシステムの導入」が認められ、12月第4回定例会から本放送を実施することとなりました。

【PC・スマートフォン・タブレットでご覧になる場合】

ポイント1 ブラウザで「<http://www.e-rumoi.jp/gikai/>」と入力。または「留萌市議会」で検索。

ポイント2 留萌市議会のホームページから「インターネット中継（一般質問）」をクリック。

※PC・スマートフォン・タブレットで視聴する場合、ご契約によっては別途パケット通信料がかかる場合がありますのでご注意ください。



こんなことが決まりました

平成30年 第3回定例会
9月4日～20日

平成30年第3回定例会が17日間の会期で開催され、認定3件、報告3件、議案10件、意見書案5件などを審議しました。

【認 定】			
・平成29年度留萌市各会計歳入歳出決算の認定について	ほか2件	……	認 定
【報 告】			
・平成29年度留萌市の健全化判断比率の報告について	ほか2件	……	了
【議 案】			
・平成30年度留萌市一般会計補正予算（第5号）について			
・留萌市営墓地条例の全部改正について			
・留萌市幼児療育通園センター設置条例の一部を改正する条例制定について			
・留萌市議会議員定数条例の一部を改正する条例制定について			
・留萌市議会会議規則の一部を改正する規則制定について	ほか4件	……	原案可決
・留萌市教育委員会委員の任命について			同 意
【意見書案】			
・林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書			
・道教委「これからの高校づくりに関する指針」を抜本的に見直し、すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書			
・学校施設や通学路におけるブロック塀等の安全性確保を求める意見書			
・児童虐待防止対策のさらなる強化を求める意見書	ほか1件	……	原案可決

編集後記

「市民と議会の意見交換会」では、「議会が何をやっているのか分からない」「もっと議員から発信してほしい」という意見が多く上げられた。また「議員定数が削減されると市民の声が市政に反映されないのでは」といった危惧もあげられた。その声に答えるには、この広報誌では余りにも紙幅が限られている。議会内で交わされた議論の極々一部をぎりぎりの所まで取捨して出稿しなければならない。各議員から出された原稿、一般質問の内容は、どれをとっても議員生命をかけた活動の足跡である。それを要約、割愛するのは甚だ心苦しいが基本的には予算の問題が枷となっている。そういった条件の中で「何を如何に」市民に伝えるか、誌面をどう充実させるのが我々、広報常任委員会の責だと思う。（土）

各組合議会からの報告

留萌消防組合議会

平成30年6月20日に行われた第1回臨時会では「補正予算（第1号）について」など3件について審議を行い、全件可決しました。また、平成30年7月20日には北海道消防学校（江別市）で、北海道消防操法訓練大会が開催され、今年度は留萌消防組合留萌消防団が留萌管内代表として出場。大会当日は留萌消防団をはじめ、全道各地の消防団が旺盛な士気のもと訓練に臨む姿勢を目の当たりにし、地域防災を担う消防団に関して、より一層の理解を深めたところでした。今後においても、留萌消防組合議会として、地域の消防防災体制をさらに充実するべく努めていきます。



▲北海道消防操法訓練大会

留萌南部衛生組合議会

平成30年第4回協議会を9月26日に開催。報告事項で、1年間のごみ収集などに関する問い合わせや苦情など受付状況について報告されました。留萌市は334件あり、ごみの分別区分・種類についてが多く、増毛町は、ごみステーションの破損など全体で35件、小平町は10件の問い合わせがありました。

協議の後、留萌南部衛生組合所管施設・最終処分場⇒有害鳥獣焼却施設及び生ごみ施設⇒衛生センター⇒資源化施設を視察。特に7月の大雨で地下ポンプ室の水没で一時的にし尿処理を停止した衛生センターの現在の稼働状況について確認しました。



▲し尿処理を行う衛生センター（留萌市）

決算審査特別委員会からの報告（一部抜粋）

9月18日から19日まで決算審査特別委員会を開きました。

【総務費】

Q 現在収集している市史基礎資料は、今後情報公開していくのか。

A 大変貴重な資料であり、整理後、環境が整い次第公開したい。

Q 無償貸与している防災情報伝達機器（防災行政ラジオ）の配布率は。



▲市が無償貸与している防災行政ラジオ
A 津波予想地域に平成29年11月から配布し、55.5%である。

Q お茶の間トークの実施状況で出張トークが0回となっているが、市からの発案がなかったのか。

A 各所管の方で出張トークという形を使わないで説明していることもあり、出張トークとしての広聴活動では0回であった。

【民生費】

Q 高齢者除雪サービス事業の課題は。

A 除雪件数の増加は高齢者事業団の除雪班を増やし対応していく。

Q 各所に配置されているAEDを24時間利用可能にすべきでは。

A コミセン内に設置されたAEDは施設利用者対象なので、時間外は救急車を呼んでほしい。

Q デイサービスセンターは一とふる運営委託において競争入札にすべき時期にきているのでは。

A 他市の状況も踏まえて調査していきたいと思う。

【衛生費】

Q エコライフ啓発活動委託における市外委託業者選定については考慮が必要ではないか。

A 今後の取り組みとしては、少しでも留萌の力を発揮できるような形がとれないか努力していく。

【労働費】

Q 留萌地域人材開発センターの移転について協議進捗と課題は何か。

A 現在、事務レベルの協議中。施設の老朽化の議論と旧北光中学校の今後の利活用を協議していかなければならない。

【農林水産費】

Q アライグマは危険獣。ネズミ算式に増えていく。対策をどのように考えているか。

A アライグマは、ものすごい勢いで増えている。退治できる箱ワナの増量を考えている。

Q 新規就農者の収入は、どのくらいか。資金不安はある。市独自の就農支援はあるのか。

A 国の支援制度で150万円。市としては、農地賃貸の支援などのほかに就農5年以内であれば、初期の設備投資に最高限度額300万円を支援している。

【商工費】

Q 観光施設が整備されていない。環境整備をしっかりとしてほしい。

A 施設の管理全般を観光協会に委託している。草刈りなどで人員や設備等で難しい場合は、外注も含めて実施してもらい指導をしたい。

Q インバウンドを含む、商店街集客力向上支援補助金600万円は単年度で目的達成したのか。

A 外国人観光客などの交流人口の取り込みと商店街への集客を目的にWi-Fi機器の設置などを実施。今後、活用状況を分析したい。インバウンドは、他の事業も連動し進めたい。

【土木費】

Q 除雪を行う際に空き地など、何カ

所を排雪場所として利用しているのか。

A 全体で61カ所を公共空地、公園空地、個人からの空地提供により利用した。今後も市民の除雪への不満解消のため、委託業者とのヒヤリングを進めていきたい。

Q 公園長寿命化事業から6カ所の遊具等の改修工事における選定順序について伺う。

A 対象公園は37公園あり、遊具の老朽化などの度合いで平成29年度は6カ所を選定し使用できない状態の遊具などの解消をすすめた。

Q 今後市営住宅の需要は高まる。個々の家族構成に対応した住宅が必要ではないか。

A 単身高齢者の応募が増えている傾向がある。福祉住宅も含めた検討を行っていきたい。

【教育費】

Q 学習補助員の役割とは。

A 小1プロブレム、中1ギャップといわれる新1年生が学ぶ環境が大きく変わり戸惑いを持つ子どもたちなどに対し、学習補助員を配置し、学びの定着などの補助を行っている。

Q 給食における廃棄物の量と平成28年度との比較について伺う。



▲ある日の給食

A 平成29年度は生ごみ、可燃・不燃ごみ、資源ごみ合計26,792kgで28年度は合計34,895kgであり、相対として8,103kgの減となっている。